

神経難病研究センターの最近の活動 (2026年 - 2025年)

2026年8月

[橋渡し研究ユニット] マレーシア国民大学 UKM からの留学生を1週間、研究見学で受け入れました。

2026年7月

[臨床研究ユニット] 日本専門医機構 内科専門医試験に、田中弘一先生、桂遥香先生、西村凌征先生が合格しました。

[橋渡し研究ユニット] Neuro2026 (神経科学・神経化学・神経回路の3学会合同大会) が開催されました。センターから数多くの演題を発表し、藤岡准教授がシンポジウムで講演しました。石垣教授は実行委員長として運営にも携わりました。

2026年6月

[臨床研究ユニット] 第134回日本神経学会近畿地方会で米田航大先生が「亜急性に進行する認知機能低下と小脳失調、錐体路症状を呈した抗Sez6l2抗体陽性例」の演題名で発表し、内科専攻医部門・若手奨励賞優秀賞を受賞しました。



2026年4月

[橋渡し研究ユニット] 石垣診祐教授の提案課題が JST「大学発新産 業創出基金事業 ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム (D-Global)」に採択され、プロジェクトが開始されました。

遠山育夫前理事 (神経難病研究センター、橋渡し研究ユニット前教授) が本学学長に着任しました。

[基礎研究ユニット] 中野将希助教が、第15回認知症学会若手の会をホテルフクラシア大阪ベイ (大阪市) に開催しました。本会では、日本認知症学会若手研究者育成委員会委員として運営し、幹事を務めました。

筑波大学 新井哲明 教授 [第45回日本認知症学会学術集会 会長]、国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 岩坪威 所長 [日本認知症学会 前理事長] に特別講演の講師としてご講演いただきました。

[基礎研究ユニット] 当部門に出入りしている木下結楓さん (医学部医学科学生・技術補佐員) が、第15回認知症学会若手の会での特別プログラム「『認知症x〇〇』最強コラボを考えよ」において、所属グループの一員として最優秀プレゼンテーション賞を受賞しました。



第15回 Society of Young Scientists for Dementia Research

認知症学会若手の会

日程 2026年4月25日(土) - 4月26日(日)

会場 ホテルフクラシア大阪ベイ 大阪市住之江区南港北1丁目7-50

特別講演 「脳病理から考える認知症の症候と病態」
新井 哲明 先生
筑波大学 医学医療系臨床医学域精神医学 教授

特別講演 「認知症研究: これまでとこれから」
岩坪 威 先生
国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 所長

【企画】 一般演題 参加者による研究発表会
研究交流会 など

【参加費】 1,000 円 飯治(一泊)及び食事付き。交通費は学費にて負担します。遠方の場合前泊も可。

認知症研究に従事する、もしくは従事したいと考えている若手研究者の交流・育成を支援し、将来の認知症研究の発展と質的向上を図ることを目的とした研究会です。
学部学生、大学院生、ホスト、大学教員、臨床医、企業などの幅広い若手研究者を対象とし、日本認知症学会の会員・非会員を問わず、多岐にわたる分野からの積極的な参加を歓迎します。
20名程度の参加者を想定。＊申込者多数の場合は、初めての参加者を優先させていただきます。



2025年12月～2026年1月に参加者を募集する予定です。
詳細が決まり次第、HPにてお知らせいたします。
(参加登録はHP内、「参加申し込み要領」からお願います。)

主催: 日本認知症学会 企画: 若手研究者育成委員会
事務局・お問い合わせ 滋賀医科大学 神経難病研究センター 担当: 中野 利希
E-mail: manakano@bell.shiga-med.ac.jp

2025 若手研究者育成委員会
島田 秀 (新潟大学臨床研究科) 堀 由起子 (東京大学大学院薬学系研究科)
野田 沙穂里 (産業技術総合研究所) 野田 健太 (慶應義塾大学医学部)
野田 美子 (国立精神・神経医療研究センター 神経研究所) 野田 文子 (滋賀医科大学 精神神経病棟研究拠点)
野田 優子 (国立長寿医療センター 認知症先進医療研究センター) 中野 利希 (滋賀医科大学 神経難病研究センター)

2026 年 4 月



[臨床研究ユニット] 講座名称を「脳神経内科学講座」に変更し、講座ロゴを作成しました。

[臨床研究ユニット] 市立大津市民病院脳神経内科が滋賀医大の関連病院として再始動しました。

2026 年 3 月

[臨床研究ユニット] 田村亮太先生が博士号 (医学) を授与されました。

[基礎研究ユニット] 滋賀医科大学 NCD 疫学研究センターとシスメックス株式会社との共同研究として、アルツハイマー病関連血液バイオマーカーと関連する因子を検討した基礎研究ユニットの中野将希助教の論文が、学術誌「Journal of Alzheimer's Disease」に掲載されたことをプレスリリースしました。

https://www.shiga-med.ac.jp/sites/default/files/2026-03/20260303_pr.pdf

合同プロGRESSレポートで橋渡し研究ユニットの柳沢大治郎准教授が“Reflecting on 18 Years at MNRC”をテーマに発表しました。次年度からは立命館大学薬学部・教授に栄転、記念の合同プロGRESSとなりました。



2026 年 2 月

[臨床研究ユニット] ALS の血中バイオマーカーに関する日豪の共同研究成果を Annals of Neurology 誌に発表しました。血中乳酸値が ALS の予後判定バイオマーカーとなることを、滋賀医大脳神経内科と豪クイーンズランド大学との国際共同研究によって明らかにしました。

Nakamura R, Steyn FJ, Kobashi S, Ogawa N, Kitamura A, Yamakawa I, Henderson RD, Ngo ST, Urushitani M. Blood Lactate as a Prognostic Biomarker for Survival and Weight Loss in Amyotrophic Lateral Sclerosis: An Exploratory-Validation Study. Ann Neurol, 2026, doi.org/10.1002/ana.78184

2026 年 1 月

[橋渡し研究ユニット] フランス Université Bourgogne Europe からのインターン生を受け入れました。

2025 年 12 月

[臨床研究ユニット] 難病学術支援コンソーシアム開催。難病診療に関わる 3 つの学会（日本難病医療ネットワーク学会、日本難病看護学会、神経難病リハビリテーション研究会）による学術合同大会「難病支援学術コンソーシアム」が、11 月 28 日・29 日、大津市民会館にて開催されました。漆谷真教授が日本難病医療ネットワーク学会の大会長をつとめました。

[基礎研究ユニット] 中野将希助教が、公益財団法人先進医薬研究振興財団の研究報告会で継続助成課題に採択されました。



2025 年 11 月

[基礎研究ユニット] 中野将希助教が、日本認知症学会代議員に選出されました。

2025 年 10 月

[橋渡し研究ユニット] 国費留学生 Siti Bazilah Binti Zulkefli さんが博士課程に入学しました。

2025 年 8 月

[基礎研究ユニット] 旧：分子神経病理学部門を神経遺伝学部門に改称いたしました。

[臨床研究ユニット] 第 29 回日本神経感染症学会で、田埜郁実先生が「第 8 回症例検討会」で最優秀賞を受賞しました。



2025 年 7 月

[臨床研究ユニット] 第 131 回日本神経学会近畿地方会で、田埜郁実先生が「デキサメタゾン髄腔内投与が有効であった若年成人女性 Cryptogenic new-onset of refractory status epilepticus(C-NORSE) の一例」の演題名で発表し、内科専攻医部門の若手奨励賞優秀賞を受賞しました。

[臨床研究ユニット] 日本専門医機構 内科専門医試験に、脳神経内科から以下の 8 名が合格しました。
八坂亜紀（総合診療専門医とのダブルボード）、金子隼也、田中智大、田埜郁実、寺田清香、畑俊嘉、山田茜、佐々木周

2025 年 6 月

[臨床研究ユニット] 矢端博行先生が日本神経病理学会の代議員に選出されました。

[臨床研究ユニット] 第 248 回日本内科学会近畿地方会後期研修医セッションで、田中智大先生が「免疫治療によりパフォーマンスステータス (PS) が改善し癌化学療法を開始し得た PCD-LEMS の 1 例」の演題名で発表し、優秀賞を受賞しました。

[共催] 脳神経内科学講座と MNRC セミナーを開催いたしました。“新世代に入った治せる脳神経内科”
演者：独立行政法人国立病院機構宇多野病院 臨床研究部 医長（免疫研究室長）田原 将行先生

MNRC セミナーを開催いたしました。“患者レジストリを基盤とした ALS 克服のための研究戦略”
演者：愛知医科大学 内科学講座（神経内科）熱田 直樹教授